

## 鷲別岳（室蘭岳）について（学習資料）

鷲別岳 911.1 mは、地元では「室蘭岳」として親しまれているが、国土地理院の地形図では「鷲別岳（室蘭岳）」と記載されている。山頂には一等三角点「鷲別岳」が設置され、「室蘭岳」と彫られた立派な頂上看板が立っている。

「鷲別岳」の名は鷲別川の水源地であることに由来するが、「室蘭岳」の呼称はそれより古く、寛政 11 年（1799）の渋江長伯の『東遊奇勝』に「モロラン山」、松浦武四郎の『三航蝦夷全図』（嘉永 7 年（1854））では「モロラン岳」と記載されている他、江戸後期に書かれた多くの絵図、紀行文などに記録が残っている。「モロラン」はアイヌ語の「モルエラニ（mo-ru-e-ran-i）」（小さな・道・そこを・下る・ところ）に由来する。

また、鷲別岳（室蘭岳）の東にはカムイヌプリ 750.1 m（三等三角点「鷲別来馬」）があり、今大会でも登頂する予定であるが、この「カムイヌプリ（kamuy-nupuri）」（カムイ＝神・山）という呼称から、この山はアイヌ民族にとって崇敬の対象であったことがわかる。幌別方面から眺めると、確かに崇高にそびえる成層火山である。

水元沢コースに沿って流れる鷲別川から鷲別岳（室蘭岳）山頂を繋ぐラインは、登別市と室蘭市の境界になっている。

室蘭市の北部には山地や台地が広がっており、中期～後期更新世に活動した火山群が長い時間をかけて浸食されて現在の地形が形成された。山地の南側は尾根線が白鳥台や八丁平などのなだらかな台地を経て市街地付近まで伸びている。一方、山地の北側は急峻に切れ落ちていて岩溝が何本も走り、アルピニズムを志向する上級者のトレーニングエリアとして知られている。

多くの市民に親しまれている夏山の一般ルートは、「夏道コース（南尾根コース）」、「西尾根コース」、「水元沢コース」の3ルートであり、これらは全て南側斜面に付けられている。一方、急峻な北側には「裏沢コース」、「滝沢コース」など、沢登りのルートが拓かれている。他に、山頂から北に伸びる「北尾根コース」もあるのだが、急峻で危険な箇所があるため、山頂からの下り口には「立ち入り禁止」の看板が設置されている。「北尾根コース」は主に沢登りの下山に使われるバリエーションルートという位置づけである。沢登りといえば、富岸川を遡上してカムイヌプリに至る「富岸川右股コース」もおもしろい。滝は全て直登できるが、撤退する場合に備えて、ロープと懸垂下降技術は必須である。また、夏道の一般ルートとしては他に、鷲別岳（室蘭岳）とカムイヌプリを繋ぐ「縦走コース」も拓かれており、この山域は初級から上級までバリエーション豊かな登山エリアとなっている。そのため利用者も多く、鷲別岳（室蘭岳）の入山届から推定される近年の入山者は年間 18,000 人～ 20,000 人とされ、札幌近郊の空沼岳 15,000 人を凌ぐほどであり、北海道の中でも目立って多くの登山者を集めている。また、山頂か

らは太平洋や噴火湾、その彼方に駒ヶ岳や、横津岳から恵山に至る山並みが遠望でき、その景観の素晴らしさや植生の豊かさなどから、鷲別岳（室蘭岳）は「北海道の自然 100 選」や「北海道 100 名山」にも選定されている。

さて、今大会では、鷲別岳（室蘭岳）の山麓に広がる室蘭岳山麓総合公園（通称「だんぱら公園」）から出発し、まず連絡路を通って水元沢コースに入る。登山道は鷲別川に沿って付けられている。水元沢コースは室蘭岳とカムイヌプリ間のコルへ出て、そこから縦走コースを辿ってまずカムイヌプリを目指す。途中、奥カムイヌプリと立木に表示されたピークを通過し、さらに三角点「鷲別来馬」を通過した後に標高 746 m の頂上標識のあるカムイヌプリ山頂広場に到着する。カムイヌプリからは再びコルまで往路を引き返し、コルから鷲別岳（室蘭岳）を目指す。最低コルには「滝沢コース」への標識も見られるが、笹藪に覆われて道は見えない。一般登山者がそちらに下りてしまわないようにあえて笹藪をしていないようだ。ちなみに、「富岸川右股コース」もこの縦走路に出るのだが、そこも同じく、どこなのかわからないうちに通過しているはずだ。コルから鷲別岳（室蘭岳）登頂までの登りがこのコースで一番きつところである。標高差と斜面の特徴を地形図で確認しておくとうい。鷲別岳（室蘭岳）登頂後は西尾根コースを辿り、白鳥湾と白鳥大橋を眺めながら、白鳥ヒュッテを目指して下山する。終盤、ペトル川支流の清流を渡って一登りすると白鳥ヒュッテだ。近くを流れるペトル川支流の湧水地には水神社が祀られ、周辺には北海道固有種のエゾサンショウウオが生息している。

白鳥ヒュッテは登山や山スキーに利用されている山小屋で、戦前の昭和 6 年（1931）に建てられた初代の「室蘭岳ヒュッテ」が焼失したことから、戦後の昭和 24 年（1949）に 2 代目の小屋として建てられた。木々が葉を落とした晩秋に竣工し、林間越しに白鳥湾が望めたことから「白鳥ヒュッテ」と命名された。この小屋はかつて室蘭市が所有、管理していたが、令和 3 年に白鳥ヒュッテ友の会に譲渡され、現在は友の会が管理運営している。カムイヌプリには「幌別コース」6 合目に 1990 年竣工の「カムイヒュッテ」があり、登別山岳会が管理している。

今回使用する国土地理院発行 25,000 分の 1 地形図は「鷲別岳」であるが、「室蘭東北部」、「稀府」も用意すると周辺の地形がわかり、山の特徴や現在地の確認がしやすくなるだろう。地形図をしっかりと読み込んで、コースと地形を徹底的に頭に入れておこう。